

# 図書波だより

第 49 号

平成 9 年 6 月 30 日  
愛媛大学附属図書館

## 目 次

幾つかのお願い……………	1 ~ 2	学術情報センター電子図書館サービス……………	15
学生に読ませたい図書の紹介……………	3 ~ 13	自己紹介……………	15
ホームページから		愛媛大学附属図書館概要1997 発行……………	15
(1)購入雑誌リスト 1997年版……………	13	夏季休業中の開館時間について……………	15
(2)平成 9 年度開館予定表……………	13	夏季休業中にともなう特別(長期)貸出……………	15
平成 8 年度附属図書館統計……………	14	図書館日誌(会議・研修)……………	16
附属図書館委員会委員……………	15	人事異動……………	16
附属図書館委員会……………	15		

## 幾つかのお願い — 学生諸君、教職員の方々へ —

小 西 永 倫

図書館の目的は、多岐にわたりますが、何といってもその第一は皆さんが必要な情報へのアクセスを試みられる際のお手伝いをし、お役に立つということでしょう。「電子図書館」はもとより、「収集・保管・配布・探索」といった図書館の基本的な業務にも、技術的变化の波が刻々と打ち寄せており、それらに対応すべく、図書館の方々は日々研鑽を積んでおられますが、(それらへの「対応」は単に技術的なものではなく、まさに「図書館学」の叡智を駆使しての「対応」であることを目の当たりにして、素人の私はいささか目を白黒させていることを白状しておかねばなりません、)根本は目的の本に接していただくことに変わりはないでしょう。

そこでまず学生諸君へのお願いですが、とにかく図書館へ足を運んでみてください。勿論、ある目的をお持ちの学生さんは、その「目的」の書物に直進してくださればいいわけですが、「目的」はあるのだが、どのような「本」をみればよいのかわからない。といったよう

な場合も少なからずあるのではないのでしょうか。例えば、「ボランティアのことを調べたいのだが、誰がどのような本を書いているのかわからない。」といった場合です。このような事やその他何でも、図書館利用に関して困ったことがあれば、ぜひ「学術情報係」(1階)に相談をもちかけてください。この係は、いわば図書館の「カウンセラー」役も果たしてくれるところなのです。また「希望図書」はどんどん「資料サービス係」のカウンターにある「ポスト」に入れておいてください。もっとも残念ながら「予算」にも苦しい「限度」があるので、必ずしもご期待に副えない場合もありますが、ところで、この母校図書館の「紹介状」があれば、他大学の図書館が利用できるという制度があることをご存知でしょうか?この「紹介状」は先に「カウンセラー」役としてご紹介した「学術情報係カウンター」で作成してもらえます。この夏休みの帰省時に、故郷の大学の図書館を利用させてもらうのも楽しい事ではないでしょうか。

次に先生方へのお願いですが、教官の方々からよく聞かされる苦情は、大抵次のどれかです。一つは「図書が整理されて手元に届くのが遅い」ということ、もう一つは「研究室の本を返したいのに受け取ってくれない」ということです。「受け入れ」移行業務を主として担当して下さっている「図書情報係」に伺ってみましたところ、図書「引き渡し」の窓口である「資料サービス」係に託すまでどうしても通しておかなければならないプロセスが、何と11個もあるのです。（「支払書類の作成」と「支払手続き」は医学部・農学部のものも本館で一括して行っています。）全学の先生方から届いた書籍のすべてがこの11のプロセスを通過しているわけですから、係の方々も文字通り終日端末に向かい動き回って下さった結果が現状であることをご理解いただきたいのです。次に「返却」の件ですが、実は本館は、嘘偽りなく満杯状態で、加えてこれ以上詰め込みますと「危険」でさえあるのです。と申しますのは、本館はもともと1、2階が図書館、3、4階が研究室として作られたもので、重量的に3、4階は多量の書物の保管には耐えられないのです。また仕方なく裏側（北側）に不自然に継ぎ足していた書庫も、もう飽和状態でどうにもならない有り様なのです。「遡及入力」以前の返却図書に直ちにその処理を施すことなど、この限られた人材では絶対に不可能ですし、積み上げておくだけにしても、（それでは単なる物理的「保管」にすぎず、その「情報」へのアクセスを希望される方に即座の提供を致しかねることは承知の上で、）先述いたしました「重量問題」も大きな不安となってくる次第です。これはまた、いわゆる「図書館資源共有」とも多分に係わってくる問題ですし、「資源共有」はまた「電子図書館」機能の完備と連動して解決されなければ、先生方に大きな不安が残るのは当然ですし、「電子図書館」機能の完備となりますと、「総合情報処理センター」への更なる依存はもとより、何よりもこの本館が抱えている、先述した本館「誕生時」に起因する「構造上」の問題に加えて、老朽化

の問題も拍車をかけて、（建設以来、もう33年にもなっております）到底「電子図書館」機能の完備に対応できるスペースが皆無というどうしようもない難問が立ちはだかっているのです。本館新築が鶴首待たれる所以です。（面積的に行き詰まり状態になっている「医学部分館」の問題も別にあります。）

そして最後にもっとも先生方をお願いしたいことがございます。それは、先生方にぜひ一度本館の3つの「開架閲覧室」及び「参考図書コーナー」をご視察いただきたいということです。第1開架閲覧室（2階東側）には、（語学、文学）を除く人文・社会科学、産業、芸術関係の図書と全分野の洋書、第2開架閲覧室（2階西側）には自然科学、工学関係の図書、第3開架閲覧室（3階西側）には、語学・文学関係があります。また「参考図書コーナー」は、1階「学術情報係」の北側にあります。学生諸君は「図書館で調べてごらん下さい。」と言われた時、また自発的に勉強に向いてきた時、それぞれのフロアをまず訪ねてくれると思われませんが、これらの「開架室」にある開架図書や「参考図書コーナー」にある参考図書（辞書）類が古すぎないか、また種類が乏しすぎないか、ぜひご診断いただきたいのです。そしてもし「これでは余りに不十分だ。」と判断された場合、ぜひ先生方の研究費から、ほんの数滴で結構ですからこの「開架室」及び「参考図書コーナー」へ、お注ぎいただきたいのです。図書館側もこの部分への対応は、注意してはいるのですが、何分子算が限られていますし、何よりも専門家の目が必要とされる所でもあるのです。伝票（図書請求書）を切られる際に、場所を図書館「開架室」のところに印をお付けいただき、ぜひご協力くださいますように。先生方お一人お一人の「数滴」のご協力が、意欲的な学生たちの目を、さらに輝かせてくれると信じています。

以上、艶も潤いもなく、ただただ「お願い」ばかりを列挙しましたこと、あしからずご了承ください。

（こにし えいりん 附属図書館長）

## 学生に読ませたい図書の紹介について

附属図書館では、図書館だよりで紹介しております「私のすすめる一冊」の特集号として各学部の教官から複数の図書を紹介していただき、夏休みにむけて学生への読書案内の企画を設けました。是非ご利用ください。

図書の\*マークは、(平成9年6月30日現在)図書館本館・開架を示し、配置場所を示す請求記号を明記しております。また、所蔵していない図書は、可能なかぎり購入・整理して、開架室に備え付ける予定です。

### 法文学部

#### 大西 貢 教官 (日本アジア文化)

\* 1) 伊藤 整 全集 全24巻

伊藤 整著 新潮社  
請求記号 918.68/IT

2) 平野 謙 全集 全13巻

平野 謙著 新潮社

3) 日本文壇史(講談社文芸文庫)

伊藤 整著 全18巻  
講談社 (現在刊行中)

文学に対するものの考え方、人間のものの見方を自分でくみとってもらいたい。

#### 栗原 宏文 教官 (マネジメント)

\* 1) コネクションズ：電子ネットワークで変わる社会

Lee Sproull, Sara Kiesler 著 加藤丈夫訳  
アスキー出版局 1993  
請求記号 007.3/SP

\* 2) コミュニケーションの科学：マルチメディア社会の基礎理論

E.M. ロジャーズ著 安田寿明訳  
共立出版 1992  
請求記号 007.1/RO

#### 秋谷 裕幸 教官 (比較経済システム)

1) ルーシー：謎の女性と人類の進化  
(自然誌選書)

ドナルド・C・ジョハンソン/マイ  
トランド・A・エディ著 渡辺 毅  
訳 どうぶつ社 1986

#### 上山 友一 教官 (政策情報科学)

1) 弁護始末記：法廷からの臨床報告  
1-27

弁護実務研究会編 大蔵省印刷局  
1980

弁護士さんが書かれた紛争体験記であるので、法律自体に関心がない人でも紛争に対処していく中での法律運用のおもしろさ、また、難しさがとてもよくわかるエッセイのシリーズである。もちろん、法律を勉強する目的で読むこともできるが、その場合でも、法律技術について読むだけではなく、そこからこぼれ落ちてしまうかもしれない人生の諸々の側面を意識して読んでもらいたいと思う。

2) 心を求めて：

一人の人間としての裁判官  
関根牧彦著 騒人社 1996

3) 裁判官の戦後史

倉田卓次著 筑摩書房 1987  
裁判官の戦後史(続)  
倉田卓次著 悠々社 1993

4) わたしは軍国少年だった

川崎 洋著 新潮社 1992

5) 幻影解「大東亜戦争」：戦争に向き合  
わされた詩人たち

今村冬三著 葦書房 1989

#### 高橋 基泰 教官 (比較経済システム)

1) クロニック戦国全史

池上裕子 [ほか] 編 講談社 1994

\* 2) 日本全史：ジャパン・クロニック

宇野俊一 [ほか] 編 講談社 1991  
請求記号 210.03/NI：参考

\* 3) クロニック世界全史

池山裕子 [ほか] 編 講談社 1994  
請求記号 203.2/KU:参考

\* 4) ヨーロッパ歴史地図:

タイムズ・アトラス  
M.アーモンド [ほか] 編  
原書房 1995  
請求記号 230.03/YO:参考

分量が多いのは確かですが、歴史の流れを若い脳細胞で遠慮なく通覧してしまおう、という貪欲な読者に薦めます。

鈴木 教司 教官 (ガバメント)

\* 1) 魔女狩り (岩波新書)

森島恒雄著 岩波書店 1970  
請求記号 080/II

魔女狩りは、一六〇〇年を中心に吹き荒れた、実に血なまぐさい狂気であった。十三世紀頃のフランスに発して、全ヨーロッパに広まり、十七世紀にはアメリカ大陸にも波及した。その内容と影響は宗教学、キリスト教学にとどまらず、歴史学・法律学・社会心理学その他に及ぶ。専門の枠にとらわれない一、二回生に強く一読を勧めたい。

\* 2) 肉食の思想 (中公新書)

鯖田豊之著 中央公論社 1966  
請求記号 080/II

3) 無罪 (新潮文庫)

大岡昇平著 新潮社 1982

4) 仮釈放 (新潮文庫)

吉村 昭著 新潮社 1991

5) 法医学教室の午後 正・続 (朝日文庫)

西丸与一著 朝日新聞社  
1985-1987

立川 信子 教官 (欧米文化)

1) バタイユ

酒井 健著 現代思潮社 1996

バタイユは、文庫に入っていないので一般には入手しにくいし、又、幾分衝撃的でとっつきにくい作家ですが、その作家、その文学にある人がどうして出会い、何故とりつかれたかがわかっておもしろいバタイユの入門書

です。

2) 巴里の憂鬱 (新潮文庫)

ボードレール著 三好達治訳  
新潮社 1965

3) サルトルの晩年 (中公新書)

西永良成著 中央公論社 1988

赤間 道夫 教官 (政策情報科学)

1) 赤い楯: ロスチャイルドの謎

(I, II, III, IV) (集英社文庫)  
広瀬 隆著 集英社 1996

この本を読まずしては現代が理解できない。この本を読めば現代が理解できる。そういっていいほど現代社会を動かす闇の一族ロスチャイルド家を徹底して解剖した書物である。全85点にものぼる「系図」は圧巻といえる。僕の講義は出なくていいからこの本を読んで欲しい。なぜならノンフィクションであることによって、調査・研究に相通ずる飽くなき探求心の何たるかを教えてくれる本でもあるからだ。

\* 2) 新・コンピュータと教育 (岩波新書)

佐伯 胖著 岩波書店 1997  
請求記号 080/II

\* 3) 社会科学における人間 (岩波新書)

大塚久雄著 岩波書店 1977  
請求記号 304/I3

(農・開架にもあり)

\* 4) 読書と社会科学 (岩波新書)

内田義彦著 岩波書店 1985  
請求記号 080/I3

塚本 秀樹 教官 (人間科学)

1) 学問の発見: 創造こそ最高の数学人生

広中平祐著 佼成出版社 1992

<改訂版>

本書は、数学界のノーベル賞と言われるフィールズ賞の受賞者で、現在、山口大学の学長である広中平祐氏が、学問とはどういうものか、ということや、学問をする楽しさや喜びについて、自身のこれまでの人生を振り返りながら、論じたものである。知識を詰め込むことが勉強と思ひ込み、学問についてよく

わかっていない学生に味わって読んでもらいたい一冊である。

### 教育学部

#### 中谷 功治 教官 (社会科教育)

##### \* 1) 理科系の作文技術 (中公新書)

木下是雄著 中央公論社 1981

請求記号 080/T1

理科系だけでなく文科系の学生諸君にも(こそ?)一読をお薦めします。学生生活に限定しても、レポート、試験答案、卒論など、成績のすべては自分が書く文章によって決まるのです。人の文章力は基本的には読書量に比例するはずなのですが、実にありがたいことに、本書を読むならば(全部読まなくても訳に立つ!)大多数の人は文章の能力がアップすること請け負います。読んでも学ぶところのない人は、レポートの達人のはずです。

#### 山口 充 教官 (学校教育)

##### 1) 老いと死：人間形成論的考察

岡田渥美編 玉川大学出版部 1994

今日生涯教育とか生涯学習という言葉がすっかり定着している。もし教育が生涯にまで拡張されるべきであるならば当然のことながら、人生の最終局面としての「老い」と「死」を組み込んだ教育論を作らねばならない。本書は、従来の狭い教育学を打ち破り、人間の生涯にわたる包括的な「人間形成論」を構築するために、「老いと死」の人間形成的意味を誠実に問うたものである。老いと死、そして教育と人間を考えるための有益な一書である。

##### 2) 人間形成論：教育学の再構築のために

岡田渥美編 玉川大学出版部 1996

##### \* 3) 人間形成原論：遺稿

(森 昭 著作集 第6巻)

森 昭著 黎明書房 1977

請求記号 370.9/M4

#### 山本 万喜雄 教官 (保健体育)

##### 1) 子どもの権利条約を読み解く：かかわり合いの知恵を

大田 堯著 岩波書店 1997

子どもをめぐる状況は厳しい。愛媛県内でもこの3年間にいじめが原因と思われる中学生の自殺が3件あった。「ラブよりキャッシュ」。そんな風潮の中で、この地球社会の現実をどうとらえ、変えていくか。本書は、「子どもの権利条約」の精神をわかりやすくあたたかく、読み解いていく。

##### 2) シャボン玉は消えない

阿部ヒロ子著 あすなろ社

##### 3) 教室に“学びのライブ”がやってきた!

久保敏彦著 太郎次郎社 1997

##### 4) 福祉文化へのアプローチ

一番ヶ瀬康子著 ドメス出版 1997

##### 5) はだかのいのち

高谷 清著 大月書店

#### 渥美 秀夫 教官 (国語教育)

##### 1) 吉本隆明×吉本ばなな

吉本隆明・吉本ばなな著

ロッキング・オン 1997

戦後を代表する文学者の父隆明と現代を代表する人気作家の娘ばななが自分と互いと家族について語り合う。深刻なテーマも、ビートたけしと太宰・三島を同列に論じる独特の口調にのせられて軽々と読める(ばななは「うえ〜ん、帰るう」とか「どきどきどき」とか、笑わせる)。父が友人の妻との恋愛を、娘が高校時代の恋愛を、いかにもそれぞれらしい表現で明かすところなど、結構おもしろく、また考えさせられる。

##### 2) 村上春樹、河合隼雄に会いに行く

河合隼雄・村上春樹 [対談]

岩波書店 1996

#### 中西 淳 教官 (国語教育)

##### 1) 教室に魅力を

大村はま著 国土社 1988

本書には、講演記録「教室に魅力を」「学習の成立のために」が収められている。そこには長年にわたって営まれた著者の国語教育実践の様相が具体的に語られている。その根底には学習者重視の教育観があり、「本当の教育

とは何か」「生きてはたらく学力とは何か」「教師の役割は何か」など教育の本質やそのあり方を考える際の指針となる。教師を目指す者にとっての必読書と言える。

\* 2) 子どもとファンタジー：絵本による子どもの「自己」発見

守屋慶子著 新曜社 1994  
請求記号 371.45/MO

\* 3) 子どもとことば (岩波新書)

岡本夏木著 岩波書店 1982  
請求記号 080/I3

#### 石井 孝昭 教官 (技術教育)

1) 「共生」とは何か：搾取と競争をこえた生物どうしの第三の関係

松田裕之著 現代書館 1995

本書は、生物の共生関係を理解しながら、来るべき「共生の世紀」とはどんなものかを示唆しているところが興味深い。資源の枯渇、環境の破壊、食料の不足がさらに深刻化することが予想されている21世紀に向けて、「共生」という自然の摂理を知り、これをこれからの世界観の形成に反映させることは非常に重要と考える。また児童・生徒間のいじめ・不登校問題などで揺れている教育界においても、「共生」を考える指導は児童・生徒の心を養う教育に大いに貢献すると思われるので、教員をめざす学生においても一読を望む。

#### 宇高 順子 教官 (家政教育)

\* 1) 水の環境戦略 (岩波新書)

中西準子著 岩波書店 1994  
(第1開架室に配架)

水環境を保全するために水とどうつきあえばよいのか、常に現実的な政策論を展開してきた水問題の第一人者である著者が、長年の成果を集大成し、さらに新たな提言を行った短編で濃厚な座右の銘。

行政や社会システムの国際比較、開発途上国の開発をどのように保証するかを含めた政策論を展開しており、水問題を具体的かつグローバルにとらえられる。また行政まかせの政策から、市民発信型政策への理念を論じて

おり、主権者の自覚を喚起する、行政と市民への熱いメッセージでもある。

2) EQこころの知能指数

ダニエル・ゴールマン著  
土屋京子訳 講談社 1996

3) 資本制と家事労働 (Monad books)

上野千鶴子著 海鳴社 1985

\* 4) 近代家族の成立と終焉

上野千鶴子著 岩波書店 1994  
請求記号 361.63/UE

#### 中村 雅彦 教官 (学校教育)

1) 癒しの時代をひらく

上田紀行著 法蔵館 1997

上田氏とはかつて同じ釜の飯を食べた同僚でもある。そんな彼が愛媛大学教養部時代に「人の目を気にしなくなったら何をするか」というワークショップを授業でやったところ、一割くらいの学生が人の目を気にしなければ愛媛大学をやめたいと書いてきたエピソードを本書の中で披露している。「本当に自分のやりたいことをやったら、かならず叱られる」あるいは「本当の自分を出したら、かならず嫌われる」とはてしなく低い自己イメージに苛まれている愛大生の心を癒してくれる一冊である。

2) 「愛」こころのうごき

中村雅彦著 北大路書房 1995

#### 理学部

##### 飯田 晋司 教官 (物質理学科)

\* 1) 物理学のすすめ(科学選書 6)  
420/LE

A. J. レゲット著 高木 伸訳  
紀伊国屋書店 1990  
請求記号 420/LE

本書は原題をthe problems of physics といい、物理学の歴史を簡単にまとめた(1章)後、現代物理の4つの領域：素粒子(2章)、宇宙(3章)、物性(4章)、量子力学その他の「基礎にかかわる問題」(5章)における(1986年時点での)現況と主要な問題を紹介している。物理学の概観を試みるこういった本は多

くが素粒子物理的立場から書かれているが、本書では物性物理の観点が強調されている(4, 5章)ので類書と読み比べるのも面白いだろう。

- \* 2) クォーク：素粒子物理の最前線  
(ブルーボックス；B-480)  
南部陽一郎著 講談社 1981  
(第2開架室に配架)
- \* 3) 神は老獺にして…：アインシュタインの人と学問  
アブラハム・パイス著  
金子務 [ほか] 訳 産業図書 1987  
請求記号 421.2/PA

**庭崎 隆 教官 (数理科学科)**

- \* 1) 行列特論 (基礎数学選書21)  
草葉公邦著 裳華房 1979  
請求記号 410.8/K4  
行列にまつわる三つの独立した話題(「メービウスの反転公式」, 「ガブリエルの定理—グラフの表現論」, 「アーノルドの定理—行列の連続的標準形」)を扱っている。メービウスの反転公式とは整数上で定義された関数についての一手法であるが、第一章ではこれを半順序集合・グラフ理論・初等整数論などと絡めて、大きなパズルを解くかのように面白くていねいに解説している。この章にだけでも挑戦してみることをお勧めする。

**堀 利栄 教官 (生物地球圏科学科)**

- 1) 宇宙150億年の旅  
(ファラデーボックス)  
広瀬立成著 日本評論社 1995  
一般教養むけの授業を担当すると、惑星科学や地球科学一般に関して面白く、わかりやすく書かれている本がないかといつも悩みます。そのときにみつけたのがこの本です。イラストも楽しく、理科系の本はちょっと苦手という人もすんなり読める内容になっています。
- \* 2) ワンダフル・ライフ：バージェス頁岩と生物進化の物語  
スティーヴン・ジェイ・グールド著  
渡辺政隆訳 早川書房 1993

請求記号 457.8/GO

- 3) 地震・プレート・陸と海：地学入門  
(岩波ジュニア新書)  
深尾良夫著 岩波書店 1985
- \* 4) 学校・学歴・人生 (岩波ジュニア新書)  
森嶋通夫著 岩波書店 1985  
請求記号 370.4/MO

**浅田 洋 教官 (物質理学科)**

- 1) EQこころの知能指数  
ダニエル・ゴールマン著  
土屋京子訳 講談社 1996

EQ (Emotional intelligence)とは「こころの知能指数」。いわゆる知能指数IQが純粋に理性的な知能の尺度であるのに対し、EQとはこころの知性で、自分自身の感情を制御し、他人の気持ちを感じとり、集団の中で調和をとり協力しあう能力である。今日、社会はIQの高い人材よりも優れたEQをもつ人材を求めるようになってきている。著者は、職場や学校、家庭における人間関係のトラブルのさまざまな具体例を紹介しながら、EQの重要性を分かりやすく印象的に説いている。

こころの持ち方、人としてのあり方、人間関係の持ち方について数多くの貴重な示唆を与えてくれる。

**井上 幹生 教官 (生物地球圏科学)**

- 1) イリュージョン：退屈している救世主の冒険  
リチャードバック著 村上 龍訳  
集英社 1977

1日24時間、時間だけは全ての人間が平等に授かっている。しかし、日々の時間の使い方は、実際には自分自身以外の何ものかによって決められてしまうことが多い。例えば、多くの子どもや大人は、それぞれ学校や会社の時間割に従って時間を消化しているのだ。読者は、この恐るべき事実気付き、自己に忠実な生き方を模索し始めるかもしれない。

**医学部**

**安川 正貴 教官 (内科学第一)**

- \* 1) 免疫の意味論  
多田富雄著 青土社 1993  
請求記号 491.8/TA  
(医・開架にもあり)
- 2) 精神と物質：分子生物学はどこまで生命の謎を解けるか  
立花 隆・利根川 進著  
文芸春秋 1990

**長谷川 均 教官 (第一内科)**

- 1) 心が迷ったとき読む本：新しい自分を築くために (PHP文庫)  
田中真澄著 PHP研究所 1994  
人生の転機に必読の新しい自己実現の哲学

**高田 清式 教官 (第一内科)**

- 1) 20世紀の日本 全12巻  
(日本近現代史シリーズ)  
北岡伸一 [ほか] 編  
読売新聞社 1995  
安全保障・医療・高度成長などの各テーマから近代日本を見通すのに、適切な図書と考えます。各テーマの第一線の研究者が著作している図書です。

**野村 哲彦 (院生)**

- 1) 夜と霧：ドイツ強制収容所の体験記録  
V. E. フランクル著 霜山徳爾訳  
みすず書房 1985 <新装版>  
請求記号 946/FR(医・開架)
- 2) アルジャーノンに花束を  
ダニエル・キイス著 小尾美佐訳  
早川書房 1989 <改訂版>
- 3) サイダーハウス・ルール  
ジョン・アーヴィング 真野明裕訳  
文芸春秋 1987
- \* 4) 死ぬ瞬間  
E. キュブラー・ロス著  
川口正吉訳 読売新聞社 1971  
請求記号 146/KU

- 5) 夜と霧の隅で (新潮文庫)  
北 杜夫著 新潮社 1963
- 6) 風の旅：四季抄  
星野富弘著 立風書房 1982
- 7) 医師ゼンメルワイスの悲劇：今日の医療改革の提言  
南 和嘉男 著 講談社 1988
- 8) 医学生  
南木佳士著 文芸春秋 1993
- 9) トニオ・クレーゲル (新潮文庫)  
トーマス・マン著 高橋義孝訳  
新潮社 1956
- 10) ベニスに死す (角川文庫)  
トーマス・マン著 浅井真男, 佐藤 晃一訳 角川書店 1971
- 11) 南京の基督 (角川文庫)  
芥川龍之介著 角川書店 1994
- 12) 杜子春 (角川文庫)  
芥川龍之介著 角川書店 1994

**成見 弘 (院生)**

- 1) 長いお別れ  
レイモンド・チャンドラー著  
清水俊二訳 早川書房 1976
- 2) 背いて故郷  
志水辰夫著 講談社 1985
- 3) そして誰もいなくなった  
アガサ・クリスティー著  
清水俊二訳 早川書房 1976
- \* 4) 竜馬がゆく  
司馬遼太郎著 文芸春秋 1972  
請求記号 918.68/S10

**工学部**

**小野 和雄 教官 (電気電子工学科)**

読書を楽しむ方法として乱読を薦めたいと思います。多くの本を読んでいるうちに、自分の好みも決まってくるものです。何かが身につくためには、それなりに身を削らなければならない。読書法も又同じです。題名を見ただけで、読みたい本か、そうでないかが閃



くようになるまでには、つまり、開高健の言う「一言半句」が手に取る本に目につくようになるには、乱読しかあるまいと思うのです。結局、読書の楽しみは、自分で好きな本、或いは作家を探し当てることです。

1) 二重らせん (講談社文庫)

J. D. ワトソン著 江上不二夫、  
中村桂子訳 講談社 1986

大学4年の卒業研究が終わり、大学院へ入学する前に読んだので、もう25年以上になります。早く就職して独立したいという気持ちがありながら大学院進学を希望し、研究をして暮らせればよいと思い始めた頃だった。研究を自分でやり始め、改めて分かることも出てきます。何をしなければならぬかは当然であるが、何を省かなければならぬか、集中できるテーマを探せるか、集中して一つの問題を長い間考えることのできる「強い頭」が必要であること、などが分かってきた。多分、この書物は他の人からも紹介があるはずで、色々な見方のある本だと思います。

\* 2) ご冗談でしょう、ファインマンさん：

ノーベル賞物理学者の自伝

R. P. ファインマン著  
大貫昌子訳 岩波書店 1986  
請求記号 289.3/F5

ファインマンの自伝です。この後本人及び身近な人によるファインマンに関する一連のシリーズが出版されているので、興味があれば読むことを薦めます。この本ではなかったかも知れませんが、私にとっては自信たっぷりのファインマンがスランプに落ち込んだときの対処の仕方が印象に残っています。最初のスランプは大学に職を得た頃ですが、ノーベル賞受賞後にもスランプに陥っています。後者は「二重らせん」の原稿を読んだ後、抜け出すきっかけをつかんだようです。対処の方法は同じ「無視」だったと覚えています。

\* 3) 流亡記 (開高 健集)

開高 健著  
新潮社 1971 (新潮日本文学63)  
請求記号 918/S5

内容との類似点は全くないのですが、最初

にこれを読んだとき、ある箇所では私の父を思い出し、読み返してもその感じが残っています。著者の「日本三文オペラ」、「輝ける闇」、「夏の闇」なども好きな作品です。彼はエッセイ、ルポタージュ、雑文と分類されるものを沢山書いています。その中には、小説のあの部分でこの話を使っているなどと思わせるものが多数あります。色々な経験や事実を蒸留して書いているのが彼の小説です。もちろん、「私の釣魚大全」、「フィッシュ・オン」、「オーパ！」など、釣りに関するエッセイやノンフィクションは大変楽しいものです。「流亡記」は個人的な思い出があるので出しただけで、きっかけにすぎません。特定の図書としてではなく作家として推薦します。

4) 白い国籍のスパイ

ヨハネス・マリオ・ジンメル(J.M. Simmel) 祥伝社 1981

開高健の書評を読んで読む気になりました。バートランド・ラッセルがこの本を読んで、「こんなにユーモアに富んだドイツ人がいるとは…」と著者の紹介にありました。あのラッセルがスパイ小説を読んでいるところを想像してみてください。ドイツ語を勉強した人は是非原題を見て下さい。とてもスパイ小説(いわゆる巻き込まれ形、後で確信犯のパターンですが)の題名とは思えません。この本は見つけにくいので、出版社を書きましたが、次の作家はハードボイルドの小説が好きな人には、あまりに有名です。シェークスピアはバイブルに次いで文章が引用される作家だそうです。以下の文章は、それほど有名ではありませんが、亜流が出るほどには有名です。一昔前、角川映画で似た宣伝文句が使われていたように思いました。もちろん、著作権の関係から全く同じ文句にはできないでしょう。しかし、映画の宣伝は肝心なところが違っているという丸谷オ一のエッセイを読んだ覚えがあります。寡作な作家R. チャンドラーの最後の長編小説からの引用です。

How can such a hard man be so gentle?  
と女性に聞かれて、主人公が応えます。  
If I wasn't hard,I wouldn't be alive.If I

couldn't ever be gentle, I wouldn't deserve to be alive.

どうです、チャンドラーの本を読んでみたくな  
ないですか。私は日本語訳を読みましたが、  
英語が得意な人は原語でどうぞ。書物を探す  
ことから読書は始まるとすれば、この文を読  
んで、興味がわいた書物は自分で探して下さ  
い。書物なり、作者なり発見の楽しみを味わ  
って下さい。

**定松 隆 教官 (情報工学科)**

1) 世界の歴史

中央公論社

ボーダレスとかグローバリゼーションとかい  
われる国際化している現代、世界の各地域或  
いは各国の成り立ち、移り変わりの歴史を知  
ることは重要だと考えます。

2) 宮崎市定全集

宮崎市定著 岩波書店 1991

3) 解析学小景

溝畑 茂著 岩波書店 1997

\* 4) 字通・字統・字訓 (3部作)

白川 静著 平凡社

請求記号 813.2/SI, 822.03/SI,  
813.1/SI:参考

**矢野 忠 教官 (電気電子工学科)**

\* 1) 量子力学 I

朝永振一郎著

みすず書房 1969 第2版

請求記号 429.1/T2

学生の頃に仲間で集まって読んだ。その後  
教師になって教科書として2, 3回は採用し  
た。何回読んでも学ぶべきところがある。急  
ぎの用には間に合わないかもしれないが、読  
むに値する本とはこんな本を言うのだろう。  
最近はこのままだるこしい本なぞ見向きもさ  
れないだろうか。残念である。量子力学にお  
ける世界の三大名著の一つを日本語の原書で  
読めるなんて。

2) マインド・コントロールの恐怖

スティーヴン・ハッサン著

浅見定雄訳 恒友出版 1993

3) マインドコントロールからの解放: 愛  
とは何か生とは何か

オウム真理教信徒救済ネットワーク  
編著 三一書房 1995

4) 物理学入門

武谷三男著 季節社 1977

\* 5) 無限と連続 (岩波新書)

遠山 啓著

岩波書店 1980 改版

請求記号 080/I1

**村田 健史 教官 (情報工学科)**

\* 1) 男と女の進化

竹内久美子著 新潮社 1990

請求記号 481.78/TA

竹内久美子さんは京都大学理学部の博士課  
程に在籍されていた方で、この本は「男と女」  
の話を生物的観点から説明したものである。  
「男と女の進化論」の根底にあるのはドー  
キンスの「利己的な遺伝子」という考え方  
である。人間の行動は遺伝子の意思によって決  
定されるという観点から、男はなぜ浮気をす  
るか、嫁と姑の問題はなぜおこるかなどを説  
明しており面白い。人間の本能的な行動を科  
学によって説明している手法は、最近の理科  
離れということを危惧される方には是非読ん  
でもらいたい。

2) かけがいのない、この自分: 教育問答

遠山 啓著 太郎次郎社 1987

新装版

3) いかに生き、いかに学ぶか

遠山 啓著 太郎次郎社 1978

4) イニユニック: 生命: アラスカの原野  
を旅する

星野道夫著 新潮社 1993

\* 5) 隠された十字架: 法隆寺論

梅原 猛著 新潮社 1981

請求記号 188.245/U1

**田村 実 教官 (応用化学科)**

1) 分子細胞生物学 上・下

H.Lodish[ほか]著 野田春彦[ほか]訳  
東京化学同人 第3版 1997

請求記号 463/BU(農・開架)

現代生化学, 分子生物学の最先端の成果を網羅している。特に遺伝子工学に代わって時代の波になりつつある“細胞”を主眼においている。

2) 分子細胞生物学辞典

村松正実 [ほか] 編

東京化学同人 1997

請求記号 463.03/BU(医・参考)

\* 3) ヴォート生化学

Donald Voet, Judith G. Voet 著

田宮信雄 [ほか] 訳 第2版

東京化学同人 1996

請求記号 463/VO

4) 生化学

Lubert Stryer 著

田口マミ子 [ほか] 訳 第4版

トッパン 1996

請求記号 491.4/ST(医・開架)

5) 遺伝子工学実験ノート

田村隆明編 羊土社 1997

井上 賢三 教官 (応用化学科)

1) 逆説・化学物質：あなたの常識に挑戦する

ジョン・エムズリー著 渡辺 正訳

丸善 1996

2) 知識人の生態 (PHP新書)

西部 遺著 PHP研究所 1996

3) CMをにぎわしたヒット商品

「化学」編集部編

化学同人 1996(別冊化学)

4) 化学物語25講：生きるために大切な化学の知識

芝 哲夫著 化学同人 1997

八木 秀次 教官 (機械工学科)

\* 1) ゼミナール現代企業入門

日本経済新聞社編

日本経済新聞社 1990

請求記号 335.21/NI

本文中に「スタンフォード大学では、1番優秀な学生は中退して自分でビジネスを始め。2番目に優秀な学生は卒業してからビジ

ネスを起こす。平凡な学生は大企業に入る。」という下りがあります。これは、アメリカの学生の目的意識の高さとともに、同じ資本主義体制ながらそれを実現できる、世の中の仕組みの大きい違いを感じます。日本経済建て直しの鍵は、この辺にありそうな気がします。少々厚いですがこの本の内容は実に具体的でわかりやすく、学問として読む必要のない工学系の学生にとっては、実に有益な“読み物”だと思います。

\* 2) ゼミナール国際経済入門

伊藤元重著

日本経済新聞社 1989

請求記号 333.6/IT

坂田 博 教官 (電気電子工学科)

\* 1) 隆 慶一郎全集 全6巻

隆 慶一郎著 新潮社

請求記号 918.68/RV

隆 慶一郎は、60才までシナリオライター・池田一郎として活躍し、1990年67才で他界するまでの僅か6年間に、20数冊の時代伝奇小説の傑作を残しています。

実在の歴史上の人物と、放浪の自由民『道々の輩』を、自在に活躍させて時代小説の新しい波を造ったと言われていています。私の面白かった物を挙げてみますと、カブキ者・前田慶次郎の一代記『一夢庵風流記』、徳川家康は関ヶ原で偽物にすり代ったという『影武者徳川家康』、徳川家康の三男で伊達政宗の婿となる『捨て童子・松平忠輝』、遊郭・吉原の秘密に材を取った『吉原御免状』『かくれさと苦界行』の連作、など長編は殆ど全てとなってしまいます。幸い、隆慶一郎全集が図書館3階に揃っていますので、どれからでも読んでみてください。

2) 突破者 戦後史の陰を駆け抜けた五〇年

宮崎 学著 南風社 1996

日本にもこんなヤバイ男がいた! という帯の通り、京都伏見のヤクザの家に生まれ、早稲田大学で秘密ゲバルト部隊に属し、週刊誌記者を経て、家業の土建屋を継ぎ、グリコ事

件のキツネ目の男に間違われ、地上げ屋らしきこともやった男の自伝的半生記です。

全共斗側から(例えば“テロリストのパラソル”)でなく、機動隊の自慢話(例えば“東大落城”)でもなく、民青の行動隊長からみた大学闘争の部分が興味深い。それだけでなく日本のこの50年の裏面史として、最近こんなに読み出したら面白くて止めれない本はめったにありません。

3) 太閤の城(PHP文庫)

安部龍太郎著 PHP研究所 1994

4) 本多の狐:徳川家康の秘法

(講談社文庫)

羽太雄平著 講談社 1992

5) 龍の見た夢(講談社文庫)

羽太雄平著 講談社 1992

**農学部**

**安部 武美 教官 (生物環境物理学)**

1) 環境保全型農業技術の生産コスト

農業機械学会編

農業機械学会 1995

水田作・畑作・園芸等の農業施設において、現在利用可能な二酸化炭素発生の抑制作業技術を摘出するとともに、自給的エネルギーの利用可能性および数年先に実用できると予測される先進的な技術の経済性について述べている。

**大林 延夫 教官 (生物資源生物学)**

1) 新たな時代の食糧生産システム

システム農学会編 農林統計協会

2050年には地球の人口が200億に達すると言われ、確実に訪れる食糧不足にどう対処するか、とくに低投入持続型農業の必要性和その具体的技術が述べられており、農学を志す学生のみならず、多くの学生に読んでいただきたい。

**藤原 正幸 教官 (生物環境物理学)**

1) 遠き落日(上)(下)

渡辺淳一著 角川書店 1979

大学時代を振り返って最もスピーディーに読んだ本である。上巻を読み終えたのが真夜中であったが、どうしてもすぐに下巻を読みたくなり、自転車をとばして深夜まで開いている本屋に走った覚えがある。少年の頃に読んだ野口英雄の伝記とは全く異なった自己中心的で名誉欲の強い野口英雄を知ることになる。しかしノーベル賞に推薦されていたことは事実であり、野口の人生から哲学者でもあり詩人でもあるEmersonが言った“The world belongs to the energetic”を感じる。

\* 2) 空海の風景(上)(下)

司馬遼太郎著 中央公論社 1975

請求記号 918.68/S10

\* 3) 知的生活

P.G.ハマトン著 渡部昇一, 下谷和幸訳 講談社 1979

請求記号 E934/H1

**菅原 卓也 教官 (生物資源化学)**

1) Biochemistry 4th ed.

Lubert Stryer著

W.H.Freeman and Company 1995

請求記号 491.4/ST(医・開架)

本書は生化学及び分子生物学の基礎から、ごく最近の知見を非常に理解しやすくまとめた教科書であり、生物学を学ぶ学生にはぜひ読んでもらいたい。

2) 細胞工学概論

村上浩紀, 菅原卓也著

コロナ社 1994

請求記号 481.1/MU(農・開架)

\* 3) 免疫学の基礎

小山次郎, 大沢利昭著

東京化学同人 1989

請求記号 491.8/KO

(農・開架にもあり)

4) 分子細胞生物学 上・下

H.Lodish[ほか]著 野田春彦[ほか]訳

第3版 東京化学同人 1997

請求記号 463/BU(農・開架)

5) 生命のしくみ

石浦章一著 日本実業出版社 1993

戎 信宏 教官 (生物環境物理学)

1) 超 勉強法 実践編

野口悠紀雄著 講談社 1997

これは、「超」勉強法の続編の本で内容は学生はもちろん、社会人でも役立つ英語、日本語の勉強法、さらにパソコンを活用した勉強法について書かれてある。この勉強法は受験勉強法ではなく、通常の勉強方法を要領よくするためのコツが的確に書かれていて、参考となることが多い。さらにパソコンを活用した勉強法で今流行のインターネットを用いた

勉強法は新しいもので、今後重要になると思われる。

岩本 純一 教官 (生物資源政策学)

1) 現代社会と資源・環境政策

中川聰七郎[ほか]著 農村統計協会

この本は愛媛大学農学部で行われる授業のために資源・環境政策学専門教育コースの教官が書きおろしたものである。具体的な事例を示しての問題提起から問題解決のための枠組まで幅広い記述がなされている。

先生方へのお願い

図書館では学内LANを使って学生に図書を紹介していただくコーナーをホームページに開設しました。

(URL <http://www.lib.ehime-u.ac.jp/HTML/toshoshokai.html>)

紹介していただいた図書はホームページで公開し、図書館に所蔵のない場合は購入の上、開架室に備え付ける予定です。

どうぞよろしくお願いいたします。

ホームページから

### 購入雑誌リストについて

「購入雑誌リスト1997年版」を附属図書館ホームページに公開しております。どうぞ御利用下さい。

URLは、和文編、欧文編とも以下のとおりです。

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/HTML/zassilist97.html>

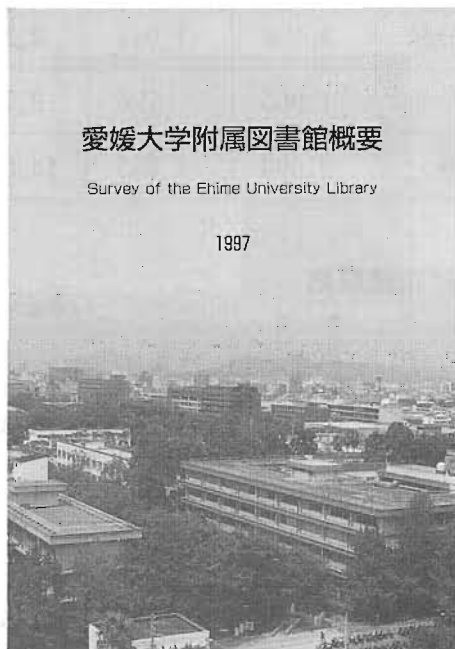
### 平成9年度開館予定表

平成9年度附属図書館開館予定表をホームページで公開しております。本館・医学部分館・農学部分館それぞれに開館日時が分かります。どうぞ御利用下さい。

URL <http://www.lib.ehime-u.ac.jp/HTML/calender97.html>

### 愛媛大学附属図書館概要 1997 発行

附属図書館概要が3年ぶりに発行されました。WWWホームページ(Web Service)や好評「WWW句碑めぐり」などの紹介、また学術情報検索システムや図書館ロゴマークを掲載し内容もリフレッシュしております。



## 平成8年度附属図書館統計

### 蔵書冊数

(平成9年3月31日現在)

区分	和漢書	洋書	計
本館	607,129 <sup>冊</sup>	250,967 <sup>冊</sup>	858,096 <sup>冊</sup>
医分館	39,884	48,082	87,966
農分館	85,609	22,217	107,826
計	732,622	321,266	1,053,888

### 貸出冊数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	2,876 <sup>冊</sup>	61,973 <sup>冊</sup>	909 <sup>冊</sup>	65,758 <sup>冊</sup>
医分館	6,222	8,202	313	14,737
農分館	709	8,311	121	9,141
計	9,807	78,486	1,343	89,636

### 増加冊数

区分	和漢書	洋書	計
本館	16,000 <sup>冊</sup>	8,922 <sup>冊</sup>	24,922 <sup>冊</sup>
医分館	2,143	1,369	3,512
農分館	2,140	736	2,876
計	20,283	11,027	31,310

### 貸出人数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	1,439 <sup>人</sup>	32,638 <sup>人</sup>	419 <sup>人</sup>	34,496 <sup>人</sup>
医分館	2,649	4,537	151	7,337
農分館	371	4,660	49	5,080
計	4,459	41,835	619	46,913

### 所蔵雑誌種類数

(平成9年3月31日現在)

区分	和雑誌	洋雑誌	計
本館	6,538 <sup>種</sup>	3,033 <sup>種</sup>	9,571 <sup>種</sup>
医分館	1,196	1,046	2,242
農分館	1,965	776	2,741
計	9,699	4,855	14,554

### 学外文献複写受付件数(現物貸借を含む)

区分	大学図書館	その他	計
本館	4,000 <sup>件</sup>	207 <sup>件</sup>	4,207 <sup>件</sup>
医分館	4,095	546	4,641
農分館	913	28	941
計	9,008	781	9,789

### 受入雑誌種類数

(平成8年度)

区分	和雑誌	洋雑誌	計
本館	3,701 <sup>種</sup>	1,661 <sup>種</sup>	5,362 <sup>種</sup>
医分館	657	537	1,194
農分館	811	323	1,134
計	5,169	2,521	7,690

### 学外文献複写依頼件数(現物貸借を含む)

区分	大学図書館	その他	計
本館	3,272 <sup>件</sup>	235 <sup>件</sup>	3,507 <sup>件</sup>
医分館	4,052	20	4,072
農分館	1,491	26	1,517
計	8,815	281	9,096

**図書館委員会委員**

(平成9年4月1日現在)

附属図書館長	小西 永倫(11. 3. 31)
医学部分館長	鳥居 本美(11. 2. 28)
農学部分館長	宮内 定基(10. 10. 31)
法文学部	三島 宣也(10. 3. 31)
	大西 貢(11. 3. 31)
教育学部	三浦 和尚(10. 3. 31)
	加藤 國安(11. 3. 31)
理学部	飯田 晋司(10. 3. 31)
	向井 和夫(11. 3. 31)
医学部	安川 正貴(11. 3. 31)
工学部	村上 研二(10. 3. 31)
	井上 賢三(11. 3. 31)
農学部	安部 武美(10. 3. 31)
事務局長	飛弾 昌人

( )内は任期

**図書館委員会**

平成8年度第3回愛媛大学附属図書館委員会  
 日時 平成9年3月7日(金) 13:30~  
 場所 附属図書館視聴覚室(4階)  
 議事

[報告事項]

- (1) 平成9年度大型コレクション等の推薦について
- (2) 第9次定員削減について
- (3) その他

[協議事項]

- (1) 愛媛大学附属図書館利用規程の一部改正について
- (2) 愛媛大学附属図書館文献複写料金徴収猶予実施細則の一部改正について
- (3) 愛媛大学附属図書館電子図書館的機能検討委員会委員の選出について
- (4) 平成10年度概算要求事項(予定)について
- (5) その他

学術情報センター **電子図書館サービス**

平成9年4月開始

学術情報センター電子図書館サービスは、国内の学協会が発行する学術雑誌を電子化してコンピュータに格納し、ネットワークを通じて広く利用者の方々に利用していただくサービスです。従来の文献検索システムとドキュメント・デリバリシステムを統合しインターネット上で提供するものです。このサービスを受けるには利用者登録申請が必要です。詳しくは学術情報係までお問い合わせ下さい。

また電子図書館に関する情報は、学術情報センターホームページで紹介しております。URL <http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html>

**自己紹介**

郡司 良夫(事務部長)

4月に東京からやって参りました。今回が八つ目の大学図書館ということになります。四国で生活するのは初めてのことで、地理も不案内なら、生活・文化・環境といったものについての予備知識のひとかけらも持たずに赴任しましたので、毎日が新鮮な驚きに溢れております。

四国というと、漠然としたイメージしかなく、山の多い地形に驚くと同時に、とても嬉しくなっています。山育ちの山人間ですので。先日、石鎚山の近くの岩黒山に案内してもらいました。愛媛に来て何よりも嬉しかったのは、市内のどこからでも山の姿を望むことができることです。執務室から眺める城山の木々、構内の木々が日毎に、というよりも刻一刻と若葉を繁らせていく姿は、人間にも刻々と変身することを無言のうちに促しているように思われます。

図書館は、今、大きな変革の波にさらされておられ、これからどのように利用者のための図書館を実現するか、試行錯誤の状態にあると言えるでしょう。これまでの約50年間に蓄積されてきた資料と利用者へのサービスのノウハウを生かし、さらに、少しでも使い易い図書館、利用者が自然に集まってくるような図書館に変身することを夢見ながら、自己紹介と致します。

## お知らせ

### 夏季休業中の開館日時について

8月1日(金)から9月30日(火)まで夏季休業になりますので、開館日時及び休館日が次のとおりになります。

開館日時：月曜日～金曜日 9:00～17:00

休館日：土曜日、日曜日及び国民の祝日

### 図書の特例(長期)貸出について

本館及び農学部分館では、夏季休業にともない次のとおり特例(長期)貸出をします。本館は資料サービス係、農学部分館は情報サービス係の各カウンターで手続きをしてください。

貸出冊数：5冊以内

取扱期間：7月17日(木)～8月29日(金)

返却期限：10月7日(火)

### 図書館日誌(会議, 研修)

- 4月9日 平成9年度新入生オリエンテーション  
～10日 ヨン
- 4月24日 在大阪・神戸アメリカ合衆総領事館領事等3名来館
- 4月24日 第45回中国四国地区大学図書館協議会総会(於・松江)  
～25日 第24回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会(於：松江)
- 5月1日 平成9年度第1回医学部分館図書・情報委員会
- 5月13日 附属図書館電子図書館的機能検討委員会(第3回)
- 5月22日 医学図書館協会総会  
～23日 (於：旭川市)
- 5月27日 国立大学附属図書館事務部課長会議(於：東京医科歯科大学)